

お弁当のあたたかせ

黒瀬中学校

三年

西田

望夢

私には、お母さんが手作りで作ってくれたお弁当にたくさん元気をもらったことがあります。

私は卓球部で毎回の大会でお弁当が必要でした。卓球部では、毎日グラウンドや学校の外周を走ったり筋トレをしたりなど基本的な体力や技術をつけるため、つらい練習もありました。日々結果を出すために頑張っていました。やはり本番が近でき、あたり前のようには私はお母さんにお弁当を作るようにと頼みました。気分十分に入れておかえた卓球の試合下、私は団体戦のチームとして他校と試合をしました。一人一人が今まで頑張ってきた練習を活かして最後まで精神を集中させて一球一球を大切に戦いました。私は一セットを最初にと、たのびすが、そのあと相手に三セットをとられしまいました。負けられない団体戦下も負けずしました。

とでも悔やしくて、泣きそうにもなりまし
た。でもそんな時、私は初めてお弁当のあた
たかさを知りました。試合が終わって私のお
弁当をあけてみると、お母さんの手のこた
料理がそこにありました。私はなぜか、その
お弁当を見てとても心があたたまりました。
試合で疲れた体かまるな何事もなかた様に
元気な体になるように。お米はまた少し温
かくて、それまた体の心かあたたまって、い
きました。今、思えばあのお弁当のおかげで

私は元氣になれたのだと思います。

お母さんは毎日朝早くに起きて家族一人一
人のごはんを作ってくれて、お弁当を作ると
なるとも、と大変なのに文句も言わず作って
くれて本当にお母さんには頭か上からない程
に感謝をしています。
ごはんって、本当にたくさんのかかこめら
れていると私は思います。傷ついたり怪
我を覆う絆創膏みたいな優しくあたためてく
れるか、笑顔かたえない日は、そばに寄りそ

て話を聞いてくれる家族や友人のために、もつと笑顔があふれて楽しい気持ちにする力。こはんには、こんな風に人間の心をあたためてくれる力があるのではないだろうか。私は今、改めて毎日こはんが食べられるありがたさを感じています。私はきつと小さい頃からおつと、こはんに支えられてきたのだと思います。ます。

毎日のこはんがこんなにも、あたたかいものだったとは、今まで考えたことはありませんでした。でも、今お米を食べることができないことに感謝して生きていくと、感じるようになります。ありがとうございました。毎回の、いただきますやごちそうさまが、できたという言葉をもちと大切にしながら、これからの食生活を送っていきたいなと思います。

こはんを食べながら家族と交わす、
つおいしいね。

という言葉は、フミコニケイシヨニをとるこののできる魔法のようですね。言葉は私に思いま

す。その一言だけで、これほどに皆の心があ
たためられていくんだということも日々を生
活で感じて分かりました。

ここまで私が書いてきたように、おはんと
いうものには魔法の力が秘められてい
ると疑ってしまっほとの、すばらしい力があ
ります。この、すばらしいおはんの魅力に気付
いていない人に私は一人でも多くの人に感
じてもらいたいのです。たまたま
のお米が、あなたたかいはそのお米があなた
かいという当然のことだけではなく、そのあ
なたがさが人間の心をあなたためてくれるよう
にあなたたかいはたかという心もあると思いま
した。これからも、おはんに感謝して楽しんで
食生活を送りたいです。